Endangered Animals

絶滅危惧動物百科 7

[(財)自然環境研究センター 監訳]

ゼノポエシルス―ニシオウギタイランチョウ

セ-ニ



朝倉書店

需要全本请访问 www.ertongbook.com

絶滅危惧動物百科 7　　定価はカバーに表示

2008年7月10日　初版第1刷

監　訳　(財)自然環境研究センター
発行者　朝　倉　邦　造
発行所　株式会社　朝　倉　書　店
東京都新宿区新小川町6－29
郵便番号　162－8707
電　話　03(3260)0141
FAX　03(3260)0180
http://www.asakura.co.jp

〈検印省略〉

©2008〈無断複写・転載を禁ず〉

中央印刷・渡辺製本

ISBN 978-4-254-17687-2　C 3345　　Printed in Japan

Endangered Animals

絶滅危惧動物百科 7

[(財)自然環境研究センター 監訳]

ゼノポエシルス―ニシオウギタイランチョウ



[illegible]工业学院图书馆
藏书章

朝倉書店



ENDANGERED ANIMALS
by Amy-Jane Beer, Andrew Campbell, Robert and Valerie Davies, John Dawes, Jonathan Elphick, Tim Halliday, Pat Morris

Produced by Andromeda Oxford Limited
11–13 The Vineyard, Abingdon,
Oxon OX14 3PX, U.K.
www.andromeda.co.uk

Copyright © Andromeda Oxford Limited 2002

All rights reserved. No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system, or transmitted in any form or by any means electronic, mechanical, photocopying, recording, or otherwise, without the permission of the copyright holder.

Principal Contributors: *Amy-Jane Beer, Andrew Campbell, Robert and Valerie Davies, John Dawes, Jonathan Elphick, Tim Halliday, Pat Morris. Further contributions by David Capper and John Woodward*

Project Director: *Graham Bateman*
Managing Editors: *Shaun Barrington, Jo Newson*
Editor: *Penelope Mathias*
Art Editor and Designer: *Steve McCurdy*
Cartographic Editor: *Tim Williams*
Editorial Assistant: *Marian Dreier*
Picture Manager: *Claire Turner*
Production: *Clive Sparling*
Indexers: *Indexing Specialists, Hove, East Sussex*

Japanese translation rights arranged with Andromeda Oxford Limited, Abingdon, Oxfordshire, England, and The Brown Reference Group Plc, London, England through Tuttle-Mori Agency, Inc., Tokyo

訳 者 序

地球上に現在みられる野生生物の種数は，学名がついているものだけでも約150万種，未記載のものを含めると1000万種を超えるといわれますが，ある推定によれば，このままでは21世紀中にその約半数が地球上から姿を消すと考えられています（たとえばエドワード・O・ウィルソン『生命の未来』，角川書店，2003参照）．このように大規模な絶滅現象は，およそ6500万年前に恐竜をはじめとする多くの生物種が絶滅して以来のもので，その主な原因は人口の増加や人間による資源利用量の増大，それにともなって起きているさまざまな形の環境変化です．ただし，生息状況についてある程度の情報があり，絶滅のおそれの高さが評価されている生物種は，体が比較的大きくて目立つものなど，全体のごく一部にすぎません．それでも，国際自然保護連合（IUCN）による2006年版のレッドリスト（絶滅危惧種のリスト）には，約1万6000種もの動植物が掲載されています．

本書『絶滅危惧動物百科』は，2002年にイギリスで出版された“Endangered Animals”という百科図鑑を翻訳したものです．本書は，過去に絶滅したか，現在，絶滅のおそれがある，あるいは何か保全上の問題を抱えている野生動物のうちの代表的・典型的な種を，哺乳類と鳥類を中心に，さらに他の脊椎動物，無脊椎動物も広く取り上げて，形態や分布，個体数，生態などの基本情報とともに，現在，その種がどのような状況におかれているか，絶滅のおそれを高めている原因は何か，絶滅を回避するためにどのような対策がとられているかなどについて，写真やイラストを添えて解説しています．

このようなテーマの本に避けがたい問題として，現在の状況を詳しく正確に記述しようとすればするほど，内容がすぐに古くなるということがあります．たとえば，本書の第1巻に解説がある絶滅危惧度合いの評価基準は，IUCNによって1994年に採用されたもので，その後，2001年に一部が改定された最新版ではありません．IUCNによる絶滅危惧度合いの評価結果やワシントン条約（「絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約」，CITES）付属書への掲載状況が，本書の出版後に変わっている種もあります．

また，日本に生息していて私たちがよく知っている動物（たとえばクビワオオコウモリ，ニホンザル，ニホンヤマネなど）についての解説をみると，事実とは異なっていたり，やや古いデータに基づくと思われる記述も散見されます．同様に，他の種についても若干の誤りが含まれている可能性があります．本書の原著者らが，入手できる資料を駆使して，正確な情報を提供すべく最大限の努力を払っているであろうことはいうまでもありませんが，本書のようにさまざまな対象を扱う場合には，どうしてもこうしたことが起こりがちです．

さらに，野生生物をどのように保全すべきかについての意見には，書き手の個人的な価値観が色濃く反映されることにも注意しなければなりません．原著者たちは，さまざまな意見の間でできるだけバランスをとろうとしていると思われますが，たとえば野生動物利用のあり方やアフリカゾウ，ミンククジラ，タイマイに関する解説にみられるように，原著者たちがイギリス人であることから，欧米中心の考え方に沿った記述がされているところもあります．ワシントン条約や国際捕鯨取締条約に基づく決定など，当面の国際的な合意にしても，政治的・経済的な力も作用した結果であって，すべてが科学的にみて妥当である保証はないことも忘れてはいけません．

この翻訳では，本書が出版された後の変化や不適当と思われる箇所などについても，とくに修正することはせずに，いくつかの明らかな誤りを除いて，基本的には原文どおりにしてあります．訳者みずからが最新情報を探し出し，典拠にあたり，さらに原著者と協議するのはきわめて困難ですし，中途半端な改訂は加えずに原文のままとした方が，後述するように，むしろ本書の利用価値を高めると考えたからです．

本書は，以上のような留意点はありますが，日本にはあまり類書がないだけに，絶滅のおそれのある動物たちの現状について，世界中を見渡した幅広い知識を得たり，

需要全本请访问 www.ertongbook.com

どのように絶滅危惧種の保全を進めるべきかを考える上で，よい参考書であるのは間違いありません．なかでも第1巻の総説には，野生動物の保全に関わる基礎的な知識がうまくまとめられています．ただし，どのようなテーマでも，きちんと調べようとすれば，1つの本ですべてが事足りるようなことはなく，本書についてもそれがいえるのはすでに述べたとおりです．

それから，日本が主要な生息地ではない種の解説にも，日本がしばしば登場することに気づいてほしいと思います．それは，たとえばウバザメ，クロマグロ，タイマイ，スッポンモドキなどです．事実とは違うと思われる記述もいくらかはありますが，このことは日本が，他の先進諸国と同様に，世界中の野生動物をペット，食品，装飾品，日用品などとして大量に消費することを通じて，それらの生息状況にいかに大きな影響を及ぼしているかということ，また逆に自分たちの行動が事態を改善する大きな力にもなりうることを示しています．

読者は，本書を手がかりに，疑問に思う点についてはとくに，他の本を参照したり，最新データにあたるなどして，正確な，また詳しい情報を得る努力をしてください．本書にある記述をそのまま受け入れるのでなく，異なる情報や意見に接し，それらの違いが生じた理由について考えることは，問題をより深く理解するのに役立つでしょう．そして，絶滅危惧種を含む野生生物の保全のあり方についてみずから考え，実行に移してほしいと思います．本書がそのような作業の出発点として大いに利用されることを期待します．

2008年3月

訳者を代表して
石　井　信　夫

訳者一覧

監　訳

（財）自然環境研究センター

分類群別担当者

石井信夫	東京女子大学文理学部	［第1巻（総説）・陸生哺乳類］
石塚　新	（財）自然環境研究センター	［無脊椎動物・昆虫類］
今井　仁	（財）自然環境研究センター	［魚類］
斉藤明子	千葉県立中央博物館	［昆虫類］
富田京一	肉食爬虫類研究所	［爬虫類・両生類］
中山聖子	（財）自然環境研究センター	［甲殻類］
奴賀俊光	千葉大学海洋バイオシステム研究センター	［鳥類］
箕輪義隆	（財）日本鳥類保護連盟調査室	［鳥類］
吉岡　基	三重大学大学院生物資源学研究科	［海生哺乳類］

訳　者

荒木良太	奥原　剛	中村康弘	広瀬珠子
石田スーザン	熊懐　愛	名取洋司	箕輪友紀子
打木研三	中島絵里	橋本幸彦	米田久美子

（五十音順）

目　　次

ゼノボエシルス 6
セントルシアウィップテイル 8
【ゾウ】アジアゾウ 10
【ゾウ】アフリカゾウ 12
ソメワケダイカー 14
タイセイヨウタラ 16
タイマイ 18
タカヘ（ノトルニス） 20
ターキン 22
タテガミミツユビナマケモノ 24
ダニューブサーモン 26
ダマガゼル 28
チスイビル（医用ビル） 30
チーター 32
チビオチンチラ 34
【チョウゲンボウ】ヒメチョウゲンボウ 36
【チョウゲンボウ】モーリシャスチョウゲンボウ 38
【チョウザメ】バルトチョウザメ 40
【チョウザメ】ヘラチョウザメ 42
チルー 44
【チンパンジー】チンパンジー（ナミチンパンジー） 46
【チンパンジー】ピグミーチンパンジー（ボノボ） 48
ツノオオバン 50
ツノシャクケイ 52
テキサスオセロット 54
デビルズホールパプフィッシュ 56
テングザル 58
ドゥクモンキー（ドゥクラングール） 60
【トカゲ】アメリカドクトカゲ 62
【トカゲ】コアオジタトカゲ 64
【トカゲ】ヒラオツノトカゲ 66
【トカゲ】マルハナヒョウトカゲ 68
【トカゲ】ムカシトカゲ 70
トド 72
ドードー 74
トトアバ 76
トラ 78
トラウトコッド 80
トリバネアゲハ類 82
ドリル 84
ドール 86
ドワーフピグミーゴビー 88
ナイズナシーホース 90
ナキハクチョウ 92
ニシアカガシラエボシドリ 94
ニシオウギタイランチョウ 96
用語解説 98
参考文献/ウェブサイト 101
謝辞と写真提供 102
分類群ごとの動物名リスト 103
学名・和名索引 105

この図鑑セットについて

『絶滅危惧動物百科』は，世界中の動物に及んでいる脅威を取り上げて解説する全10巻の図鑑セットです．主な脅威の1つは生息地の消失ですが，それだけではなく，本来生息しない地域へ移入された種の影響がとくに深刻です．

さまざまな問題に直面する動物たちの実例を，哺乳類や鳥類のほか，魚類，爬虫類，両生類，昆虫・無脊椎動物まで，主な動物分類群がすべて含まれるように選びました．生息数がきわめて多いにもかかわらず，問題に直面している動物がいます．また，すでに絶滅した動物もいます．

第1巻『総説―絶滅危惧動物とは』は，科学者が動物を分類する方法や，動物たちが絶滅の危機に瀕している理由，保全活動家の仕事などについて解説しています．文中の相互索引には，巻数の次にページ数が記され，この図鑑セットの中の関連箇所を示しています．

第2巻から第10巻は，それぞれの種についての解説です．登場する動物たちは，和名でアイウエオ順に，それぞれ見開き2ページで紹介されています．データパネルには基本情報と生息分布図がまとめられています．

各巻の目次にアイウエオ順で並んだ動物の和名から，特定の種を探してください（各巻末尾の全巻共通索引には，学名と和名のページがあります）．知りたい動物がみつかったら，まずデータパネルから関連する種をたどることもできます．「＊」マークがついた「近縁の絶滅危惧種」は別に解説されています．また，左ページ下にある関連ページの相互索引は，第1巻，あるいは他の巻の項目を指しています．たとえば，「コキンチョウ **5**：66」は，第5巻の66ページから見開きでコキンチョウの解説があることを示しています．この相互索引には，ふつう，いま読んでいる種と同じ属や科に含まれる動物が出ていますが，分布域や脅威の種類が同じ動物が記されている場合もあります．

各巻の末尾には，用語解説，参考になる文献やウェブサイト，全巻索引があります．



ゼノポエシルス

Xenopoecilus sarasinorum

Xenopoecilus（Sarasin's minnow）

ゼノポエシルスは分布域が限られている魚で，その繁殖戦略はふつうの魚と異なります．インドネシアのスラウェシ島にあるただ1つの湖に生息することから，生息環境の変化に対して非常に脆弱（ぜいじゃく）です．水質の劣化とともに，非在来種の天然環境への人為的な導入が，ゼノポエシルスの危機的状況を引き起こしています．

魚がいかに分類学の専門用語で細かく分類されようとも，繁殖方法に基づいて分類すると，一般的には2つのグループのどちらかに含まれてしまいます．つまり，卵生（卵を産む魚）か，あるいは胎生（仔魚を産む魚）ということです．ほとんどの魚の場合は，この分け方には当てはまります．体内受精の後に仔魚を産む魚はいく例かありますが（多くのサメ類など），大多数の魚種では卵の受精と発生は体外で起こります．体外受精はさまざまな方法で達成されます．たとえば，直接，卵と精子を水中にまき散らし，その後，両親が世話をしないものから，周到に用意された産卵床に卵を産み落とし，片親もしくは両親が徹底した世話を行い，時には両親のどちらかが口の中で孵卵や仔魚の保育をするものまであります．

中間的な魚

他のいく種かのサメ類やエイ類，2種のメダカ類，そして1種のカラシン類とともに，ゼノポエシルスは卵生や胎生といった範疇（はんちゅう）にきちんと当てはまる魚ではありません．本種は（胎生の魚が行うように）体内受精を行い，メスはその後に，完全にではありませんが卵を体外に放出します．卵は環境水中に完全に放たれるのではありません．交尾後数時間で（体内で卵が受精を完了したら）メスは少量の卵（たいていは20粒未満）を産みますが，それぞれの卵は糸あるいは繊維をもち，メスの肛門付近に付着できるようになっています．

この時点で，メスは腹びれを後方に折りたたみ，卵塊を部分的に覆い保護します．そして卵は胚発生の完了に要する2週間の間，メスによって持ち運ばれます．

この卵の持運びは明らかに，仔魚の生き残りにとって重要なことです．もしメスの体に卵を付着させている糸が切れて，胚発生が完了する数日前に卵が脱落してしまったら，胚は通常生き残りに失敗してしまいます．しかしながら，もし脱落が孵化直前の場合は，孵化まで生き残るチャンスは高まります．ただし，「うまくメスの目から逃れることができたら」の話です．なぜなら，メスは貪欲な卵食者だからです．

データパネル

英名 Xenopecilus（Sarasin's minnow）

学名 *Xenopoecilus sarasinorum*

科名 メダカ科 Adrianichthyidae

世界の個体数 不明．少ないと考えられている

分布 インドネシアのスラウェシ島にあるリンドゥー湖

生息場所 水面の表層．植物の豊富な環境を好む

大きさ 体長：約8cm

形態 細長く，側扁する．鼻先はとがり，口と目が大きい．背びれは尾びれの近くに位置する．オスの体の側面には暗色の斑紋が1列に並ぶ．メスの場合，斑紋ははっきりとせず，かろうじてみえる程度である．オスの背びれと尻びれはメスのものより大きい．メスの腹びれはオスのものより長い

食物 昆虫類，水生無脊椎動物，小魚などさまざまなものを食べる

繁殖 繁殖期のオスは，体や長く伸びたひれを黒化させ，求愛行動をみせる．朝方にしばしばみられる繁殖行動において，オスはその背びれと尻びれをメスの体に巻きつける．数時間すると，メスは小さな卵塊を産みはじめる．卵塊は細い糸によってメスの肛門近くに付着してとどまる．メスは腹びれを後方に折りたたみ，卵塊を覆い保護する．それから約2週間後に孵化が起こる

近縁の絶滅危惧種 エッグキャリングブンティンギ（*Xenopoecilus oophorus*）：絶滅危惧（EN），ポプタズブンティンギ（*X. poptae*）：絶滅寸前（CR），ダックビルドブンティンギ（*Adrianichthys kruyti*）：絶滅寸前（CR）

現状 IUCN絶滅危惧（EN），CITES付属書非掲載



参照項目：「外来種」**1:** 55，「飼育繁殖」**1:** 89，シルバーシャーク **6:** 66



ゼノポエシルスは，水面の植物の覆いを好む表層遊泳魚です．自然環境下で本種は，外来種との競合や森林伐採の結果生じた，水質変化の影響を受けてきています．

絶滅が危惧される科

ゼノポエシルス属には，エッグキャリングブンティンギ，ポプタズブンティンギ，ゼノポエシルスの3種が含まれます．それら3種は，同じ亜科に属する別の種のダックビルドブンティンギとともに少なからず絶滅の危機にさらされています．このたった4種からなる小さな亜科は，観賞魚愛好家の間で人気のあるメダカを含むメダカ科に属しています．この科に属する魚種の多くも，やはり卵の不完全放出という変わった特性をもった体内受精をみせ，そのことが観賞魚飼育家だけでなく，科学者をも魅了しています．

ゼノポエシルスまたはサラシンズミノーとして知られている本種は，ここ数年，水槽で人工繁殖が行われてきました．われわれが本種について知っていることの多くは，水槽内で繁殖飼育し維持してきた献身的な愛好家と科学者たちがこつこつと集めてきた情報の集積なのです．水槽内繁殖の個体群が継続的に飼育されている限り，たとえ人為的環境下ではあっても，その種は生き残り続けます．

もし近い将来に自然環境の改善がなされなければ，現実に水槽育ちのゼノポエシルスがこの種において唯一の生き残りとなってしまうでしょう．このことは，不安定な状況ではありますが，おそらくゼノポエシルスにとっての故郷であるスラウェシ島のリンドゥー湖が直面する状況ほど悪くはありません．

リンドゥー湖について公表されてきた数少ない情報によれば，汚染は大した脅威ではないそうです．むしろ，その地域の森林伐採が水質変化を引き起こしている可能性があり，さらにその一方で，主に食用や趣味の釣りの対象として導入されてきた外来種が，すべての脅威の中で最大のものとなるかもしれません．他の地域における多くの実例が示しているように，いくつかの外来種は駆逐が不可能となり，驚くほど短期間のうちに在来種を消し去ってしまいます．その在来種の分布域がゼノポエシルスのように限定的であればあるほど，絶滅のリスクは高いのです．

セントルシアウィップテイル

Cnemidophorus vanzoi
St. Lucia whiptail（racerunner）

セントルシアウィップテイルは，カリブ海のセントルシア近くの3つの島に生息しています．移入種の捕食者による脅威に直面したこの種の話は，保護活動のささやかなサクセスストーリーです．

名前はセントルシアウィップテイルですが，本種は，セントルシア島南東海岸から約1km離れた大小マリア島にだけ生息しています．カリブ海の火山島であるセントルシア島には生息していません．マリア島にはほかに，希少なヘビであるセントルシアレーサーを含む7種の爬虫類が生息しています．セントルシアウィップテイルとセントルシアレーサーは，世界でこの地でしかみられません．生息数を増やすため，ウィップテイルはセントルシア沖にあるもう1つの島であるプラスリン島にも導入されました．

ウィップテイルはセントルシア島自体にも生息していたかもしれませんが，そういう記録はありません．もし，この種がそこにかつて生息していたとすれば，バナナやココナッツ栽培と捕食動物の導入のため，生息地が破壊されてしまったと考えられます．

捕食者の侵入を水際で食いとめる

現在この地域に生息している多くの種と同様，ネズミが移住民とともにやってきて急速に繁殖し，すぐに害獣となりました．ネズミ駆除のため，インドマングースが導入されましたが，この両方の動物が，多くのカリブ海諸島の野生動物にたいへんな被害を与えました．

幸運にも，セントルシア島に非常に近いにもかかわらず，無人島のマリア諸島には，ネズミやマングースはいません．1982年から，この諸島はセントルシア・ナショナル・トラストと森林漁業省によって保護区とされています．ネズミのような捕食動物が，他の地域から持ち込まれないように，管理官が入島を規制しています．地域住民は，セントルシアウィップテイルを誇りにしており，彼らの保護を支持しています．セントルシアウィップテイルの体色は，セントルシアの国旗の色と同じです．

小マリア島のウィップテイルは，大マリア島のものよりも小さく，乏しい色彩をしています．この2つの個体群の違いを明らかにするために，遺伝学的研究が行われています．島間の交配が妥当かどうかを知るためには，そのような情報が必要です．

本種の生息数が少ないため，飼育繁殖事業を実施することになりました．その事業は1984年にサンディエゴ動物園で最初に行われ，その次は1988年にチャンネル諸島にあるジャージー野生動物保護財団で開始されました．目的は，セントルシアウィップテイルを飼育下で増やし，それを将来には野生に戻すことです．他のウィップテイル種の飼育は難しいのですが，この事業はしばらくの間うまくいっていました．しかし，病気が発生して中止されました．その後，ウィップテイルを導入できるかどうかを検討するため，プラスリン島が調査されました．この島は，セントルシア島から80mしか離れていません．面積は約1haあります．ネズミがいるため，ウィップテイルを定着させるためには，まずネズミを駆除しなければなりませんでした．

毒を使ったネズミ駆除は，8日間で完了しました．この毒は，他の動物には危害がないようでした．ヤドカリはそれを食べますが，死にませんでした．この毒はドブネズミの血液に対して作用しますが，無脊椎動物には影響がありません．

1年後，植物の種子を食べていたドブネズミを駆除したことにより，プラスリン島の植物が回復してきたことがわかりました．かつて生息していたヤギも島から除去されました．こうして，植生や他の自然条件が大マリア島と同様になったため，プラスリン島にウィップテイルの個体群を移設できると考えられました．他のトカゲ2種が定着しており，食料は十分あるようでした．1995年に大マリア島で54頭のウィップテイルが捕獲され，プラスリン島に移されました．その後，その個体群はプラス

参照項目：「外来種」**1:** 55，「動物園の役割」**1:** 88，イビーサカベカナヘビ **4:** 10，ムカシトカゲ **7:** 70

リン島によく適応し，定期的に繁殖しています．プラスリン島の個体群の数は，現在約100頭と推定されています．ウィップテイルをよりよく知り，他の小さい島にも個体群を移設する可能性を探るため，さらなる研究が行われています．

新たな島に生息地をみつける

ウィップテイルが現在生息している3島はいずれも小さく，山火事やハリケーンなどの自然災害で個体群が影響を受ける危険もあります．さらに，プラスリン島は，セントルシア島から捕食者が泳いだり，漂流植生にのるなどしてたどり着けるほど近いのです．したがって，新たな生息地をみつけることが望ましいのです．

これまでのウィップテイルの保護は，ささやかなサクセスストーリーです．ドブネズミの除去はプラスリン島の生態系全体の改善につながりました．地面に巣をつくる鳥が戻り，他のトカゲ2種も生息地が回復されたことで恩恵を受けています．しかしながら，このような狭い地域に生息するトカゲ類の小さな個体群は，つねに脆弱(ぜいじゃく)です．

データパネル

科名　St. Lucia whiptail (racerunner)

学名　*Cnemidophorus vanzoi*

科名　テュー科　Teiidae

世界の総個体群　約2000頭

分布　カリブ海の小アンティル諸島南部のウィンドワード諸島にある，セントルシア近くの大小マリア島とプラスリン島

生息場所　開けた林地，開放地のある低木林

大きさ　体長：オス45 cm，メス35 cm

形態　長いむちのような尾が全長の60％を占める．オスの頭部と胴は黒く背中には白いストライプ，脇には白い斑点があり，腹は黄色，尾は青緑色．メスや若いオスは茶の胴体にクリーム色の縞(しま)や斑点がある

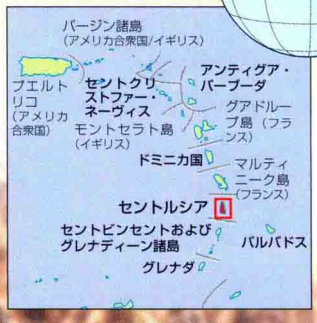
食物　昆虫類

繁殖　6～8個の卵をゆるい砂地に埋める．それでも捕食者にみつけられることがある

近縁の絶滅危惧種　オレンジノドウィップテイル（*Cnemidophorus hyperythus*）：情報不足（DD）

現状　IUCN危急（VU），CITES付属書非掲載





オスのセントルシアウィップテイルは印象の強いトカゲで，側面には斑点模様があり，腹部はオレンジ色がかった黄色をしています．

需要全本请访问 www.ertongbook.com

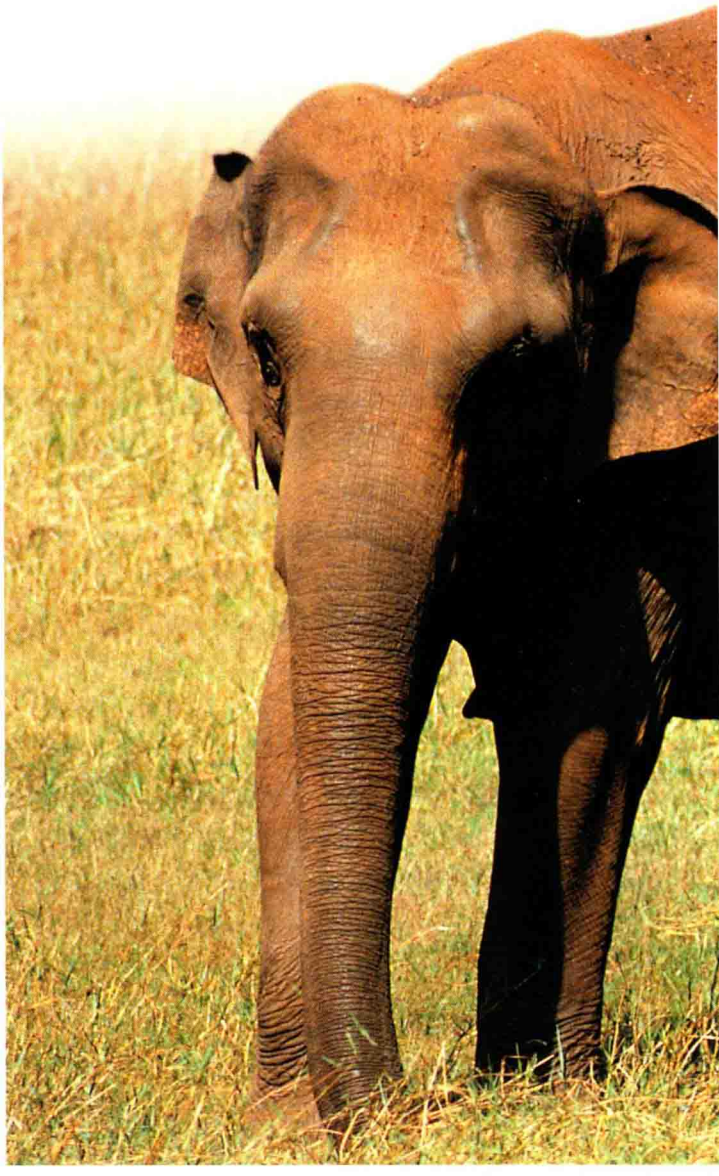
【ゾウ】

アジアゾウ

Elephas maximus

Asian elephant

アジアゾウは，使役動物としてだいじにされているため，絶滅することはないでしょう．しかし，野生個体群は深刻な脅威にさらされています．



アジアゾウはメスとその子供で構成される小さな家族グループで生息します．ほとんどのオスは独身オスの群れで生息します．インドには約2万7000頭のゾウが生息しますが，約1500頭だけが成体で牙のある個体です．これは象牙目当ての密猟が小規模に行われても個体群の構成が変わることを示しています．

アジアゾウはアフリカゾウよりも小型です．東南アジア一帯にみられますが，かつての分布域の東と西の端では絶滅しています．世界中の動物園に数百頭のアジアゾウがいますが，飼育下で繁殖することはほとんどありません．

アフリカゾウとは異なり，アジアゾウは訓練され，使役動物として数世紀にわたって使われてきました．今日，重労働のために訓練された1万頭以上のアジアゾウがいます．皮肉にも，アジアゾウの存続を左右する環境である森林から，伐り倒した木を引き出す手伝いに使われています．

森林は，広域がすでに伐採され，つねに消失し続けています．森林の破壊により，生き残ったゾウの個体群は小集団で散り散りになってしまい，それぞれ孤立しています．出会って繁殖するためには，あらゆる危険をともなう開発地を横ぎらなければならないことが多いのです．インドネシアのある事業では，このようにして孤立した数頭のゾウが大面積の生息地にいる他個体と合流できるよう，積極的に移動させました．

ゾウは広い空間を必要とします．1頭の行動圏はしばしば40 km^2を超え，インド南部では300 km^2を超えます．

アジアゾウは1日に50リットルの水を飲む必要があり，川もしくは湖の近くにすむことが不可欠ですが，このような土地はまさに農業に利用するのに理想的なところです．森林が農地に置き換わると，ゾウに選択の自由がほとんどなくなり，バナナやサトウキビのような新しい作物を荒らすようになります．結果として，農民は銃やワナでゾウをつかまえるようになります．

ゾウは毎日少なくとも150 kgの植物を食べる必要があります．このような量が自然状態で手に入るのは豊かな熱帯林でだけです．もっとも成長力が高い森林でさえ，十分な食料をみつけるために動きまわる必要があります．アジアゾウは乾季の食料不足をのりきるため，異なる採食地間を季節的に移動します．しかし，このような移動は現在，道路や農地により阻(はば)まれています．国立公園でさえ，年間を通じてゾウの個体群を収容するに十分な大きさはないことがあり，特別に分散のための移動路（コリドー）で森林地域を連結させ，森林間の季節的な移動

参照項目：「戦争」**1:** 49，「なぜ哺乳類は危機にさらされているのか」**1:** 62，アフリカゾウ **7:** 12



データパネル

英名　Asian elephant

学名　*Elephas maximus*

科名　ゾウ科　Elephantidae

世界の個体数　3万8000～5万頭，加えて飼育個体が約1万3000頭

分布　パキスタン，中国東部，ベトナム南部，インドネシア，スリランカ

生息場所　熱帯林と草原

大きさ　頭胴長：5.5～6.4m，尾長：1.2～1.5m，肩高：2.5～3m，体重：メス2720kg，オス5400kg

形態　長い鼻，円柱のような足をもつ巨大な動物．背が丸く，耳がやや小さく，頭が丸い点で，アフリカゾウと異なる．牙(きば)をしばしば欠き，とくにメスにはほとんどない

食物　樹木の葉，草本，そして樹皮．ミネラルをとるために土も食べる

繁殖　22カ月の妊娠期間の後に，1頭を出産する．季節を問わず出産する．寿命は80年

近縁の絶滅危惧種　アフリカゾウ（*Loxodonta africana*）*：絶滅危惧（EN）

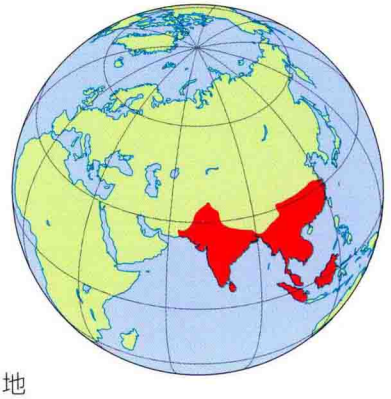
現状　IUCN絶滅危惧（EN），CITES付属書Ⅰ

を可能にすることも行われてきました（たとえばカラール・ジャカナリのコリドーは，インド南部にあるニルギリ生物圏保護区の北と南の4000頭のゾウを行き来させています）．こうしたコリドーは幅が13km必要です．

むだに奪われる命

メスは牙(きば)をもたず，ときにはオスも牙を欠いていることがあるにもかかわらず，数世紀の間，象牙目的の銃やワナによる捕獲はアジアゾウにとっての脅威でした（アフリカゾウはつねに象牙を目的とした狩猟の脅威下にあります）．アジアゾウの象牙の取引は現在，ワシントン条約（CITES）によって禁止されています．

アジアゾウにとっての新たな脅威は，20世紀に起こった戦争によってカンボジア，ベトナム，その他のアジア諸国のジャングルに残された何百万もの地雷です．スリランカでは地雷を踏んで死ぬゾウは年間約20頭と推定されています．



【ゾウ】

アフリカゾウ

Loxodonta africana

African elephant

アフリカゾウは地球上でもっとも大きな陸生哺乳類です．その大きさだけでなく，知能，記憶力，習性といった点でみても驚くべき生き物です．

アフリカゾウについての統計的数値は，この動物そのものと同じくらいに印象的です．世界最大の陸生哺乳類で，妊娠期間も最長です（660日，すなわち2年近くです）．成体は1日に70～90リットルの水を飲み，約150kgの食べ物を食べます．しかし，その大きさと体重にもかかわらず，アフリカゾウは，突進したり逃げたりするときに時速40kmのスピードを出すことができます．

ゾウの特徴である鼻には多くの機能があります．食べること，運ぶこと，霧吹き，体を冷やすため水や砂を吹きつけること，音を出すこと，他のゾウとのあいさつ，威嚇，なでること．子ゾウにとってはおしゃぶりにもなります．ゾウには長い象牙があり，たたかいや土掘りに使われます．大きな耳は，アフリカの暑気の中で体を涼しく保つために，はためかされます．

ローマ人はアフリカ北部の地中海沿岸にすむゾウについて記していますが，今日ではアフリカゾウはサハラ砂漠より南のサバンナ草原と森林にみられるだけです．そこで草木の葉を食べ，ときに牙で木を引き裂き，木の皮や葉をむしりとります．血縁のメスたちは，その子たちと群れをつくって生活します．群れは，女家長と呼ばれるもっとも年老いたメスに率いられます．オスのゾウは，思春期になると群れを去ります．オスは単独もしくは小さな独身オスグループで生活し，群れには交尾のためにふたたび戻るだけです．

ゾウは約70歳まで生きます．社会性の強い動物で，とくに，危険なときに協力し合い，病気やけがをした家族を助けることが知られています．血縁個体の死を悲しむとも考えられています．

アフリカゾウの個体群は驚くほど激減しました．20世紀のはじめには数百万頭のゾウがいました．1970年には200万頭，今日ではおそらく50万頭以下でしょう．



アフリカゾウは体を涼しく保つため，大きな耳をはためかせます．このゾウは砂浴び（体を冷やすもう1つの方法）で赤くなっています．

データパネル

英名 African elephant

学名 *Loxodonta africana*

科名 ゾウ科　Elephantidae

世界の個体数 54万3000頭ほど

分布 サハラ以南のアフリカ

生息場所 サバンナの草原，森林

大きさ 頭胴長：5m，肩高：3.3m．オスはメスより10%大きい．体重：オス6トン，メス2.9トン

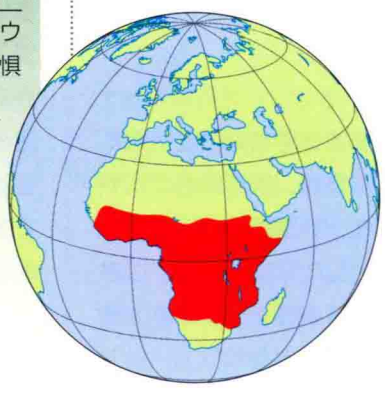
形態 巨大で，灰色がかった黒色．円柱のような足，大きな頭，大きな耳，長い牙，しなやかな胴体をもち，皮膚に毛はほとんど生えない

食物 草本，樹木の葉，樹皮

繁殖 13～14歳で繁殖できる．妊娠期間は2年近い．雨季に，3～4年おきに出産する．寿命はおそらく70年ほど

近縁の絶滅危惧種 アジアゾウ（*Elephas maximus*）*：絶滅危惧（EN）

現状 IUCN絶滅危惧（EN），CITES付属書Ⅰ，Ⅱ（国による）



参照項目：「狩猟」**1:** 44，アジアゾウ **7:** 10

自然状態での捕食者はほとんどおらず，もっとも危険な敵は人間です．

取引と土地

象牙は，伝統的に彫刻や宝飾品をつくるのに用いられてきたすばらしい素材です．象牙の取引は17世紀にはじまり，その頃はアラブの商人が西アフリカでゾウをつかまえました．銃，とくにライフルの発明により，ハンターはずっと効率的に動物を殺せるようになりました．アフリカゾウは現在多くの国で保護されており，象牙の取引は国際的に禁止されています．しかし，いまだに象牙の根強い需要があり，密猟が広く行われています．

生息地の消失もゾウにとっての脅威となっています．アフリカの人口が増加するにつれ，町を広げるための土地や農地がさらに必要になってきていて，ゾウの生息地が縮小し，採食手段が限られてきています．これにより，ゾウと人間とのあつれきが生じ，ゾウは飢えに至り作物被害をもたらす可能性があります．

保護団体の圧力によって，1989年にアフリカゾウはワシントン条約（CITES）の付属書Ⅰに掲載され，種そのものと加工品の国際取引が禁止されました．しかし，いくつかのアフリカの国々は保全のための資金を得るために取引を継続しようとしています．

保護団体は，密猟パトロール，教育，貿易管理を通じてゾウの保全強化事業をアフリカで実行しました．ゾウによって得られる報酬が現地の観光産業へと変わることで，ゾウと人間とのあつれきが減少するよう，保護団体は地域住民とともにはたらいています．



ソメワケダイカー

Cephalophus jentinki
Jentink's duiker

ソメワケダイカーは18種あるダイカー類の1つですが，現在ほとんどすべての種が危険な状態にあります．この動物にとっての最大の脅威は，国際的な取組みによって阻止しようとしているにもかかわらず続く，違法な狩猟です．

ダイカーは森林にすむ小さなレイヨウで，わずかに丸まった背中をしています．この目立つ模様をした動物の学名は，1884年の西アフリカ探検の際，はじめて標本を記録したF. ジェンティンク氏にちなんでつけられました．この動物は1892年に正式に記載，命名され，このとき，世界でもっとも希少なレイヨウの1つとして認識されました．その後，実に半世紀にわたり目撃例がありませんでした．ソメワケダイカーは希少なだけでなく，きわめて臆病で内気でもあったため，目撃されなくなったのはとくに驚くことではありませんでした．この動物は，夜にだけ姿を現す，怖がりの動物です．

ダイカーの名は，ダイバーを意味するアフリカーンス語に由来し，これは，ちょっとした騒ぎですぐ茂みに逃げ込む神経質なレイヨウを表現しています．ソメワケダイカーは強いなわばり性をもち，単独性の個体と，つがいとで，低い密度で互いに距離を十分にとってくらしています．顔にある大きな分泌腺から出るにおいを使ってなわばりにしるしをつけ，雌雄ともに短い角を武器として使い，自分たちの土地を，同種の他個体から守ります．

リベリア，シエラレオネ，コートジボワール（象牙海岸）で，それまでかく乱を受けていなかった森林の生息地にまで人の活動域が広がってくると，ソメワケダイカーは以前より目撃されやすくなってきました．ほとんどの絶滅危惧動物にとって，目撃の増加は回復が期待できるしるしとして扱われますが，ソメワケダイカーの場合，観察数の増加は，森林から開けた場所へ追いやられるといった，生息地における人為的圧力の増加を示しています．おそらく現在では，以前よりもダイカーの生息数は少ないと考えられます．木こりや農民によって森林が伐採されるにつれ，ダイカーは，隠れ場所として低質な二次林に依存するようになり，思いきってやぶ地や農地に入り，ときには作物を食害しました．

狩猟による脅威

ソメワケダイカーにとって最大の脅威は，肉を目当てに狩猟されることです．ダイカーの中で最大のソメワケダイカーは，他のダイカーよりも狩猟される危険性が高いのです．公式には取引目的の狩猟からは保護されていることになっていますが，法律が地域住民に理解されている地域でも，法を執行することはきわめて難しいのです．多くの人々が森林にはたらきにくる地域で問題はも



ソメワケダイカーは，日中は森林や茂みに隠れ，夜間は採食に現れます．目立つ模様の毛皮は月明かりの中では姿をみえにくくします．メスは1子を産み，5カ月間授乳します．

参照項目：「資金問題」**1:** 90，クーズー **5:** 14，ダマガゼル **7:** 28

っとも深刻です．シエラレオネ内戦では，兵士は，その土地で生計を立てる木こりと同じで，森林で自分用の食料をつかまえるか，地元のハンターから食べ物を供給されていました．シエラレオネに平和が戻るまで，保全問題に対応する機会はおそらくほとんどなかったでしょう．

ソメワケダイカーの生息地のいくつかは保護されましたが，個体が低密度で生息しているため，十分な個体群を維持できるほどの大きさの保護区や国立公園はほとんどありませんでした．果実，葉，肉といったさまざまな食べ物が与えられる飼育下では一見，幸福そうにみえるかもしれません．しかし，いまのところ飼育されているたった2頭はともにオスで，当面，飼育繁殖できる見込みはありません．普及啓発の改善，個体と生息地の保護はダイカーが生き残るための最良の機会となりますが，貧しく政治的に不安定な地域でこのような政策を進めるのは難しいところがあります．

データパネル

英名 Jentink's duiker

学名 *Cephalophus jentinki*

科名 ウシ科 Bovidae

世界の個体数 2000頭以下

分布 シエラレオネ，リベリア，コートジボワール(象牙海岸)

生息場所 密生した森林と灌木林

大きさ 頭胴長：1.4m，肩高：75～80cm，体重：70kg

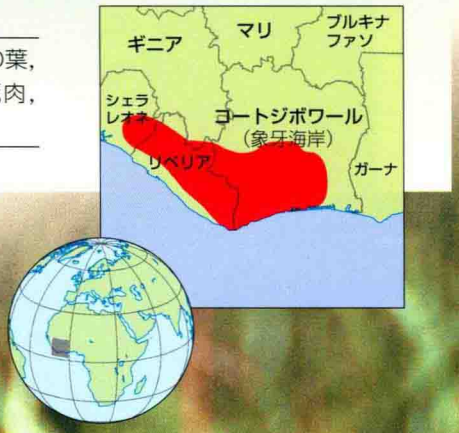
形態 小柄で短い角をもったレイヨウ．足は短く，背はやや丸い．体の模様が特徴的．頭と首は黒く，えりが白く，背は灰色で，足は白い．頭の毛は小さなふさになっている

食物 主に植物資源で，樹木の葉，根，果実を食べる．昆虫，死肉，鳥の卵も食べる

繁殖 7カ月半の妊娠期間の後，1頭を出産する．メスは9～12カ月，オスは12～18カ月で成熟する．寿命は12年

近縁の絶滅危惧種 アダースダイカー(*Cephalophus adersi*)：絶滅危惧(EN)，ズグロダイカー(*C. nigrifrons*)：絶滅危惧(EN)

現状 IUCN危急(VU)，CITES付属書Ⅰ



需要全本请访问 www.ertongbook.com